

琉球諸語の形容詞重複形  
—方言間に見られる機能の差異と階層の提案—  
占部 由子<sup>1</sup>

## 1 はじめに<sup>2</sup>

本発表では琉球諸語の形容詞の重複形を方言間で比較し、そこで見られる差異から階層の提案を行う。琉球諸語の多くの方言には表1中の、特に動詞修飾の例に見られるような形容詞語根の重複形がある。

表1. 各方言の形容詞重複形（重複形×：重複形の使用なし、他形式による例を薄く表示）

方言の例	宮古語保良方言 (かりまた 2002)	八重山語石垣方言 (宮城 2003)	奄美語上嘉鉄方言 (白田2016)
動詞修飾	<u>pja:pja</u> fai. 「早く食べる。」	<u>maimai</u> tsikurijo:. 「大きく作れ。」	<u>heebeetu</u> iri yoo! 「早く入れよ!」
名詞修飾	<u>mma:mmanu</u> m: 「おいしい芋」	<u>maimainu</u> ja: 「大きい家」	<u>nagasan</u> gusii 「長い棒」重複形×
述語	kaiga cɪftaɪ asja: <u>mma:mma-ja</u> . 「あいつが作った昼飯はうまいね。」	ure:nudu ʔitsibam <u>maifa:da</u> . 「彼が一番 大きかった。」重複形×	un inganʔkaa=ya <u>inasai</u> . 「この子犬は 小さい。」重複形×

しかし、この重複形には通方言的にどのような共通点・相違点があるかは明らかになっていない。そのため本発表では南北琉球18地点の先行研究の記述を基に方言間の比較を行い、重複形が担う機能には動詞修飾 > 名詞修飾 > 述語という階層が見られることを示す。

本発表の構成は以下の通りである。まず、2節では琉球諸語の形容詞に関する研究の概要を示す。3節では調査の概要とその結果を示し、4節で階層の提案を行う。

## 2 琉球諸語の形容詞研究

これまでの琉球諸語の形容詞研究では一般に、接辞 -ku+アリに由来するクアリ型の語形を使うか、接辞 -sa+アリに由来するサアリ型の語形を使うかという分類が、共時的な方言間バリエーションや通時的变化に関する議論の中心になっていた (上村 1997 など)。

- (1) a. un kasee ma-ku a-soo.

「この菓子は(より) おいしいなあ」(奄美喜界島上嘉鉄方言)[白田 2016: 101]

- b. waN harazji=wa naga-sa a-N.

「私の髪の毛は長い。」(奄美沖永良部国頭方言)[横山 2017: 184]

<sup>1</sup> 九州大学大学院/ 日本学術振興会特別研究員 DC y-urabe@kyudai.jp

<sup>2</sup> 本発表は特別研究員奨励費 18J21798, 「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(代表: 木部暢子氏) の助成を受けている。本発表のために参照したデータには、2016年6月から2020年2月の間に行っていたフィールドワークで得たものが含まれる。日頃より調査にご協力いただいている石垣島・西表島の話者の方々に記して感謝申し上げる。なお、誤謬は全て発表者に帰する。

一方、琉球諸語には、上記の形式に加えて表 1 中に見られるような形容詞の重複形が存在する。重複形は南琉球語、特に宮古語を中心に議論され (下地 2018 など)、琉球諸語の通方言的な議論の中で注目されることはなかった。しかし、近年の記述研究の結果、北琉球の諸方言にも重複形が見られることがわかってきた (Niinaga 2014, 横山 2017 など)。南琉球と北琉球では重複形の形態的特徴に違いがあり、北琉球の重複形は連濁を生じ、-tu という形態素<sup>3</sup>を伴う。

- (2) a. hada=wa      kuru-guruu=tu      hjikat-i=gadi      u-N  
「肌は黒々と光ってさえている。」(奄美沖永良部国頭方言) [横山 2017: 191]
- b. kumaakuma      sis-iba.  
「細かく切れ。」(八重山波照間島方言) [麻生 2020: 92]

本発表では重複形に関する最新の記述研究の成果を基に、琉球諸語の形容詞研究で扱われてこなかった重複形の機能に関する方言間バリエーションの記述を行い、階層の形で一般化を行う<sup>4</sup>。

### 3 調査

本発表では、既存の記述データを用いた調査を行った。調査の際には、各方言における形容詞に関する記述を参照し、重複形がどのような機能を担いいるかを確認した。確認した項目は動詞修飾、名詞修飾、述語の 3 つである。宮古語平良方言のデータを基に、各機能の例を示す。

- (3) 宮古語宮古島平良方言 (狩俣 1997)
- a. taka:taka tubi.      「高く 飛べ」【動詞修飾】
- b. taka:taka=nu jama      「高い 山」【名詞修飾】
- c. kanu jamanudu taka:taka.      「あの山が高い」【述語】

動詞修飾は、動詞述部の前に現れ述語を修飾するもの、名詞修飾は、属格を伴って名詞の修飾部に現れ、名詞を修飾するものである。述語の場合は単独で重複形が述語に現れる。

以上の観点について、北琉球 6 方言、南琉球 12 方言の記述を参照し、調査を行った。各地点の位置と結果を図 1 に示す。次節では、調査の結果に基づき、形容詞重複形に見られる

<sup>3</sup> この-tu という形態素の機能は方言ごとに異なる。Niinaga (2014), 白田 (2016), Carlino (2019) は-tu を副詞化接辞として分析し、横山 (2017) は=tu を引用助詞として分析している。

<sup>4</sup> なお、伝統的な琉球諸語学では一般に「形容詞」と呼ばれる品詞に関しては、日本語の形容詞の語彙に対応するものを中心に調査し、記述されてきた。しかし、近年の記述研究では個別言語内の体系における基準で品詞を設定されるようになってきた。そのため、「形容詞」が指す対象が記述ごとに異なるうえ、「形容詞」という品詞を立てない記述もある (例: 麻生 2020)。こうした問題点が存在するが、発表中では便宜的に「形容詞」という用語を用いる。

階層の提案を行う。

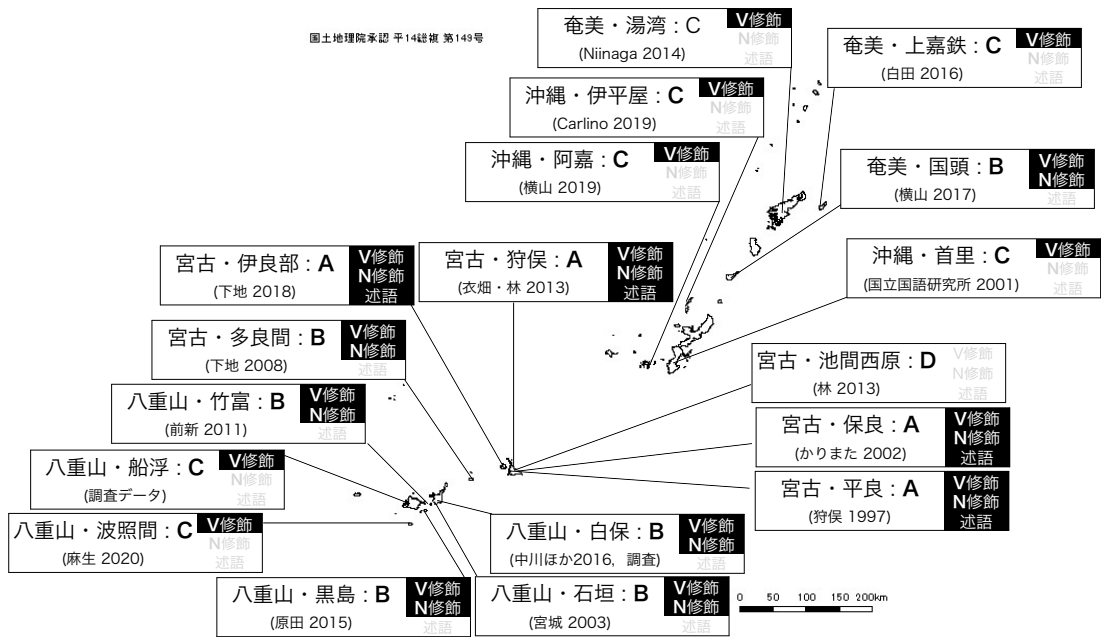


図 1. 調査結果 (V: 動詞, N: 名詞)

4 形容詞重複形にみられる階層

図 1 では、南北琉球諸語の各方言において形容詞重複形がどのような機能を持つかを示した。その結果から、次の階層の提案を行う。

(4) 形容詞重複形の階層: 動詞修飾 > 名詞修飾 > 述語

(4) は以下の 2 つのことを示す。まず、これは階層の左に行くほど重複形が担いやすい統語機能となる、ということである。次に、この階層はある方言において形容詞重複形が担う統語機能を、階層に基づいて予測することを可能にしている。例えば、ある方言における重複形が名詞修飾の機能を持つのであれば、動詞修飾の機能ももつことを予測する。

表 2 では、動詞修飾、名詞修飾、述語という 3 つの組み合わせから論理的に考えられる A ~C と E~H までの 7 パターンと、「重複形が無い」という D パターンを加えた 8 パターンを示す。このうち、現在琉球諸語で見られるのは A~D の 4 パターンである。

表 2. 階層に基づく方言の分類 (N: 北琉球での地点数/ S: 南琉球での地点数)

	A	B	C	D	E	F	G	H
動詞修飾	○	○	○				○	
名詞修飾	○	○			○			○
述語	○					○	○	○
地点数	N: 0/ S: 4	N: 1/ S: 5	N: 5/ S: 2	N: 0/ S: 1				

E～H までの 4 パターンは階層の予測に反するものであり、実際に現時点までの調査において、これらのパターンの方言は見つかっていない。

D パターンについて、宮古語池間西原方言の記述を行った林 (2013) では、この方言において重複形が存在しないことが指摘されている。これも階層には矛盾しない。

以下では、A～C パターンについて、それぞれのパターンの方言について例を見ていく。

#### 4.1 A パターン (動詞修飾・名詞修飾・述語)

A パターンに該当する方言は宮古語にのみ存在している。例として、宮古島狩俣方言のデータを上げる。

##### (5) 宮古島狩俣方言 (衣畑・林 2013)

- a. naga naga nubaŋ. b. takaataka=nu pitu=nu=du aasŋki uŋ=naa.  
「長く伸ばす。」【動詞修飾】 「背の高い人が歩いている。」【名詞修飾】
- c. kanu yaa=ya bɔdaa bɔda.  
「あの家は低い。」【述語】

(5) に示しているように、狩俣方言では動詞修飾、名詞修飾、述語の全てにおいて重複形が使われる。

#### 4.2 B パターン (動詞修飾・名詞修飾)

B パターンに該当する方言は、南北琉球で見られる。このパターンの方言では、動詞修飾と名詞修飾の場合に重複形が使われる。例として、奄美沖永良部国頭方言のデータを挙げる。この方言では名詞修飾の際に、重複形に=nu という要素がつき、属格助詞=nu が続く。

##### (6) 奄美沖永良部国頭方言 (横山 2017)

- a. hada=wa kuru-guruu=tu hjikat-i=gadi u-N.  
「肌は黒々と光ってさえている。」【動詞修飾】
- b. wana ufu-ufuu=tu=nu suika cukut-a-N=jaa.  
「私はとても大きな西瓜を作ったよ。」【名詞修飾】
- c. wa=ga waro-sa.  
「私が悪い。」【述語】

B パターンの方言では、(6c) のように形容詞重複形が述語において現れることはない。このパターンの方言では述語としての機能を、(6c) のようにサアリの形式が担う。

#### 4.3 C パターン (動詞修飾)

C パターンの方言も南北琉球に見られる。このパターンの方言では、動詞修飾の場合にの

み重複形が使われる。例として、八重山語波照間島方言のデータを挙げる。

(7) 八重山波照間島方言(麻生 2020)

- a. kumaakuma sis-iba.                      b. kee sipaha duu nagi ja-ba=n...  
「細かく切れ。」【動詞修飾】                      「こんな狭い所であっても…」【名詞修飾】
- c. isjan kuu gara misja-n  
「医者が来るからいいよ。」【述語】

波照間島方言では動詞修飾の場合にのみ重複形が使われ、名詞修飾や述語の場合にはサアリの形式が使われる。ただし、麻生 (2020) では形容詞の重複形が化石化し、特定の語彙に限られることが指摘されている。

## 5 階層の成立の解釈：重複形の機能と他の形式との関係

共時的な階層は、しばしば通時的な発達過程を反映していると言われる。(4) で言えば、琉球諸語の重複形には動詞修飾機能がまずあって、続いて名詞修飾、そして述語というふうに、方言によって機能を拡張させていったとみる考え方が可能かという点について、以下で試論を述べる。

まず、動詞修飾が全琉球的に重複形の最も基本的な機能であると見る点については、以下の点が関わっていると考えられる。すなわち、日本語において形容詞が動詞を修飾するときには広く使われる -ku 形 (例: 高く飛ぶ, 高くする) が、琉球諸語の諸方言においては共起可能な動詞に制限がある場合が多いという点である。例えば、徳之島伊仙方言では (8) のように、軽動詞かそれ以外かで、-ku を使うと容認されにくくなる (加藤 2021)。

(8) 奄美徳之島伊仙方言 (加藤 2021)

- a. kin au-ku sjun                                      b. ? kin au-ku sumiri.  
「着物を青くする (青に染める)」                                      「着物を青く染める」

同様の指摘は宮古語の記述においてもなされている (例: 伊豆山 2002, 衣畑・林 2013, 下地 2018)。通時的に見れば、-ku による動詞修飾機能が日本語のように発達しなかったところへ、重複形が入り込んできた可能性がある。

こうして、どの方言でも重複形の中心的な機能として動詞修飾があると考えられる。次に、これが名詞修飾の機能を獲得し、最後の述語位置に立つようになるという通時変化が考えられるかどうかのポイントとなる。通言語的に、形容詞の機能の2つの柱は修飾と叙述である (Dixon 2004)。(4) の階層を単純化させれば、まさに修飾 (動詞 > 名詞) > 叙述と解釈できる。重複形は、動詞修飾機能から名詞修飾機能へと機能を拡張させ、そこからさらに叙述へと機能を拡張させつつある、と通時的に考えることは十分可能である。

今後は、このシナリオを検証するために、例えば B タイプとされる言語の中で、重複形

が特定の環境で述語にも使われることがある、といった例がないか、自然談話資料などを使って調べる必要がある。

## 6 おわりに

本発表では琉球諸語の形容詞重複形の方言間比較を行い、重複形が担いえる機能には動詞修飾 > 名詞修飾 > 述語という階層性が見られることを指摘し、この階層の成立に関する試論を示した。今後の課題として、5節で示したような通時的な変化の過程を個別方言における形式間の機能分担に関する記述や自然談話資料を参照するほか、古典日本語の形容詞の史的变化に関する研究も踏まえながら検討する。

引用参考文献 麻生玲子 (2020)「南琉球八重山語波照間方言の文法」博士論文、東京外国語大学./ **Carlino, Salvatore** (2019)「北琉球沖縄語伊平屋方言の文法」博士論文、一橋大学./ **Dixon, R.M.W.** (2004) *Adjective Classes in Typological Perspective*. In: Dixon, R.M.W. and Alexandra Y. Aikhenvald (eds.) *Adjective classes: A Cross-Linguistic Typology*. 1-49. Oxford: OUP./ 原田走一郎 (2015)「南琉球八重山黒島方言の文法」博士論文、大阪大学./ 林由華 (2013)「南琉球宮古語池間方言の文法」博士論文、京都大学./ 伊豆山敦子 (2002)「琉球宮古 (平良) 方言の文法基礎研究」真田信治 (編)『消滅に瀕した言語にかんする緊急調査研究 (2)』35-90. 大阪: 大阪学院大学情報学部./ 狩俣繁久 (1997)「琉球列島の言語 (宮古方言)」亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編)『言語学大辞典セクション日本列島の言語』388-403. 東京: 三省堂./ かりまたしげひさ (2002)「琉球語宮古諸方言の形容詞についてのおぼえがき一城辺町保良方言の形容詞活用を中心に一」狩俣繁久・津波古敏子・加治工真市・高橋俊三 (編)『消滅に瀕した言語にかんする緊急調査研究』343-461. 大阪: 大阪学院大学情報学部./ 加藤幹治 (2021)「徳之島伊仙方言の形容詞と助詞」琉球大学島嶼地域科学研究所(編)『シマジマのしまくとうば 2』31-58. 沖縄: 琉球大学島嶼地域科学研究所./ 衣畑智秀・林由華 (2013)「琉球語宮古狩俣方言の音韻と文法」『琉球の方言』38: 17-49./ 国立国語研究所 (編)(2001)『沖縄語辞典』東京: 財務省印刷局./ 前新透・波照間永吉・高嶺方祐・入里輝男 (2011)『竹富方言辞典』沖縄: 南山舎./ 宮城信勇・加治工真市・波照間永吉 (2003)『石垣方言辞典』沖縄: 沖縄タイムス社./ 中川奈津子・ラウ, タイラー・田窪行則 (2016)「八重山語白保方言の文法概説」狩俣繁久 (編)『琉球諸語 記述文法 II』1-60. 沖縄: 琉球諸語記述研究会./ **Niinaga, Yuto** (2014) *A Grammar of Yuiwan, A Northern Ryukyuan Language*. Ph.D. Dissertation, The University of Tokyo./ 下地賀代子 (2008)「形容詞の語彙的意味と形式の相関—琉球・多良間方言—」『千葉大学人文研究』37: 105-125./ 下地理則 (2018)『南琉球宮古語伊良部島方言』東京: くろしお出版./ 白田理人 (2016)「琉球奄美喜界島上嘉鉄方言の文法」博士論文、京都大学./ 上村幸雄 (1997)「琉球列島の言語 (総説)」亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編)『言語学大辞典セクション日本列島の言語』311-353. 東京: 三省堂./ 横山晶子 (2017)「琉球沖永良部国頭方言の文法」博士論文、一橋大学./ 横山晶子 (2019)「阿嘉島方言の動詞、形容詞の初期報告」琉球大学沖縄国際研究所(編)『危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』114-129. 沖縄: 琉球大学島嶼地域科学研究所。